Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

学会託児所の設置に役立つ情報と今後の課題

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西山, 圭子, 小森, 万希子, 立石, 実, 松本, 卓子, 冨澤, 康子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00031839

東女医大誌　第 87 巻　第 6 号
頁　165〜169　平成 29 年12月

総　説

学会託児所の設置に役立つ情報と今後の課題

[1]東京女子医科大学東医療センター麻酔科
[2]東京女子医科大学医学部心臓血管外科学
[3]東京女子医科大学医学部外科学（第一）

西山（ニシヤマ）　圭子（ケイコ）[1]・小森万希子（コモリ マキコ）[1]・立石（タテイシ）　実（ミノリ）[2]・松本（マツモト）　卓子（タカコ）[3]・冨澤（トミザワ）　康子（ヤスコ）[2]

（受理　平成 29 年 10 月 16 日）

Child Care Services at Scientific Meetings: Useful Tips and Assignments

Keiko NISHIYAMA[1], Makiko KOMORI[1], Minori TATEISHI[2], Takako MATSUMOTO[3] and Yasuko TOMIZAWA[2]

[1]Department of Anesthesiology, Tokyo Women's Medical University Medical Center East
[2]Department of Cardiovascular Surgery, School of Medicine, Tokyo Women's Medical University
[3]Department of Surgery I, School of Medicine, Tokyo Women's Medical University

Medical doctors actively participate in academic meetings and study intensively to achieve self-improvement in medical science and practice and thereby develop possibilities for future career success. It is important and valuable experience to learn techniques for questions and answers and discussions at academic meetings and to interact with people at social gatherings, along with reading academic books and journals. Participation or making academic presentations at academic societies is indispensable to becoming a specialist. Establishment of daycare nursery centers in academic meetings has been proposed as one of the positive actions to improve the environment to enable female doctors to continue to work actively. Here, we present information useful for the organizers of academic meetings at the time of setting up daycare nursery centers. The use of daycare centers differs depending on the academic society and is affected by factors such as whether the number of uses is small or conversely waiting for cancellation; the cost burden also varies. We find good examples of safety management, including cooperation with neighboring doctors. As the number of female doctors and the demand for academic daycare centers will increase, each academic society must secure nursery teachers, a place, and a budget to establish daycare nursery centers.

Key Words: child care service, scientific meeting, child rearing

はじめに

日本においては女性医師の継続就業には仕事と家庭との両立をサポートする事業が不可欠である．働き続けやすい環境を整備する中には，ポジティブ・アクションの１つとして，学会託児所の設置をすでに多くの学会で行っている．今回，我々は学術論文，学会会告にある託児案内，学会開催報告，会員による座談会記事，新聞記事等を参考に学会託児所の現状を調査し，今後の課題について考察した．なお，本稿中では「ベビールーム」「保育室」「保育所」「託児

✉：西山圭子　〒116-8567　荒川区西尾久 2-1-10　東京女子医科大学東医療センター麻酔科
E-mail: nishiyama.keiko@twmu.ac.jp
doi: 10.24488/jtwmu.87.6_165
Copyright © 2017 Society of Tokyo Women's Medical University

所」「託児サービス」など多くの表現を用いているが，出典に表現されている文言をそのまま用いた．そして，ここでは乳幼児から就学児を一時的に預かる設備を託児室と記した．

学会託児所を希望する理由

1. 学会参加の必要性と意義

医師は積極的に学術集会に参加し，自己研鑽に努めなければ将来の活躍は難しい[1]．例えば，小児外科専門医を取得するには，5年間で100例の症例と，学会参加が求められ[2]，麻酔科専門医の取得にも学会発表が必須である．さらに学会においては，フロアーとの質疑応答を通じて，基本的な疑問に答え他人のアイデアを取り入れるなどの新たな発見があり，理解を深めるための討論の仕方を学んだり，懇親会で人との交流をはかる[1]など，学術書・雑誌を読む勉強だけでは得ることのできない経験もできる．また，自分の発表だけでなく他人の発表も聴いて勉強することは貴重な体験となる．

2. 現状の問題点

子育て中の女性医師が学術集会に参加するには様々な困難がある．子育ての経験がないと理解しにくいが，子供が小さい間は，多くは母親に託児をどうするかの解決策が求められ，つい億劫になり学術集会への参加の機会が少なくなることが指摘されている[1]．学術集会・研究会に参加する時，子育て中の女性医師は両親や夫など，特定の誰かに負担を掛けすぎるという罪悪感を持つことがある．学会託児所が設置されるようになる前は，会期の全部または一部の参加を諦めたり，日帰りできる範囲で参加したり，参加できても，早く家に帰らなければならないと感じ，懇親会までは残れなかったと聞いた．共著者の立石は子供が小さい頃は，学術集会に演題を出すか決める時に，学会ホームページに「託児所のご案内（準備中）」があるかどうか必ず確認した．預けられない場合や，宿泊が必要な学会には参加しないことにしたり[2]，自分の発表があり，どうしても参加する場合は子供を見てくれる家族を同伴した．また，たとえ，地方会で「発表させてもらえそう」と思っても，子どものことを考えると「参加は難しい」と思い，発表の機会を逃したと言う女性医師がいた．

未就学児を預かる学会託児所は増えてきており，女性医師は参加しやすくなっている．しかし，就学児は未就学児対象の託児室は利用できず，小学校の子を持つ女性医師には，また次の壁がある．小学生は1人で留守番させるのは心配な年頃であり，学童保育は土，日は閉まっていて，週末にある学術集会には母親は参加しにくい．学童向けのシッターサービスを利用すると，自宅で学習の見守りやおやつの世話をしてもらえるが，泊まりがけでの学会参加はやはり難しいという現実がある．2016年札幌で開催された日本心不全学会学術集会は学会託児所の対象は未就学児であったが，著者の1人が問い合わせたところ，幸いなことに小学校低学年児童を預かってくれた．



Fig. 1 Childcare persons and a child in the daycare nursery center at the 44th Annual Meeting of the Japanese Society for Cardiovascular Surgery (2014, Kumamoto)

心臓血管外科は女性医師が少ない診療科であり，子供がいる人はさらに少ないため，学会託児所を利用する人が少ないとはいえ(Fig. 1)，学会託児所は必要である．若手外科医に対する配慮や女性医師のキャリア支援の中に学会託児所があるかどうかに，学会や会長の姿勢・方針が示されている．

3. 学会託児所の利点

学会会場内に託児室があれば，今まで子供がいることによって学会参加を制限されていた会員が学会に参加しやすくなり，研究活動にプラスになる[3]．子供を連れて参加することができれば，苦痛から解放され，子供が近くにいる安心感もある．また，学会に子連れで参加すれば親の仕事の世界を見せることができ[4]，さらに，子連れで家族旅行ができるという利点がある．

外国の学会では，父親が7歳くらいの息子を連れていて，息子は会場で静かに本を読んでいるのを見かけたことがある．最近では，日本でも父親が子連れで学会参加することはまれではない[5]．そして，夫婦とも医師で，旅行を兼ねて家族（子連れ）で学会に参加する人や，男性の医師が学会託児所に子供を

連れてくるのを見かけることがある．

会場に託児室を設置せずに，ベビールームに預けたら良いではないかという意見がある．しかし，見知らぬ土地の保育事情を把握し，会場近くの一時託児所を探して子供を預けるのはきわめて難しく，特に土，日は子供を預ける場所が少ない．学会会場内であれば空いた時間にすぐ会いに行ける利点がある．子育ては夫婦で行うものであり，父親が子連れで学会に参加しようとする時にも，学会託児所があれば，参加が可能になると推測される．

医学系と理系の学会託児所設置の現状と意識

1．学会託児所設置の現状

荒木らが 2000 年に日本医学会分科会を調査した時，学会託児所は 7 学会に限られていた[6]．2008 年 12 月に日本外科学会女性外科医支援委員会（現　男女共同参画委員会）が調査した時には調査票を送付した 105 学会では 5 年間に 46 学会で，計 230 回設置されていた[7]．

2010 年に報告されたリハビリテーション科の女性専門医へのアンケート調査において仕事環境で改善（配慮）を希望する項では，学会，研修会，地方会における託児サービスが含まれていた[8]．日本プライマリ・ケア連合学会では他学会に比べて託児所設置の年間設置回数が多く，学術大会（懇親会含む），学会主催の 4 セミナーと指導医養成講習会に設置している[9]．

最近，北海道内の有志の小児科医が北海道小児科男女共同参画会議を立ち上げ，小児科地方会開催時に託児することを提案した[10]．これにより，育児中の小児科医，とくに女性医師の学習の機会が増え，日本小児科学会専門医更新のための研修単位が取得しやすくなったといわれている．また，地方会での託児サービスが常時開設されていることが参加する会員に認知されている．都内の公立病院に勤める 79 名を対象にしたアンケート調査（回収率 73.4 %）では，学会託児所を利用していると答えた女性医師は 16.0 %であり[2]，活用は増える傾向にある．

2．学会託児所設置に対する意識

日本天文学会は，優れた若手研究者を参加者として確保するために，保育室設置が年会運営にとって不可欠な要素であると位置づけた[11]．2000 年，アメリカ物理学会の child care service の有用性を見て，日本物理学会の有志が世話人として「物理学会会期中の保育所設置を考える会」を持つこととし，ホームページを立ち上げ，情報提供を行った．そして，保育室を設置した学会のリストへのリンクを学会雑誌の「会員の声」欄に投稿した[11]．このコメントに対して日本物理学会理事会からの回答は「子育ては妻に任せたり，あるいは妻の子育ての手助けをしているというのが現状で（中略）託児施設の準備・運営はあくまでも育児の苦労をしていらっしゃる会員にしていただかなくてはなりません．」と，性別役割分担意識を強く感じさせるものであった．さらに，この学会託児所設置の動きは全国紙に取り上げられた[3]．そして，2001 年より現在に至るまで半年ごとの学会で託児所を設置してきた．毎年の設置経験を几帳面に記録に残しており[12]，さらに 10 年後に座談会を持ち[13]，マニュアルを作成した旨を記載している[14]．座談会記事によれば[13]，最初は理事が設置を躊躇し消極的であり，利用者の熱意で設置が実現したが，10 年後には理事も利用者も設置が当然との意識となった．また，設置前には一般の会員からは子供を連れて学会に来ることに批判的な声も聞こえたが，10 年後には設置されている託児所を利用していることを温かく評価するようになった．このように，全体の意識が大きく変わり現在に至っている[15]．

学会託児所を設置するために

1．設置方法とその工夫

学会託児所の設置を企画する時，学会事務局・開催校・世話人（託児室運営委員）の連携で設置する場合と，イベント託児の専門業者への完全委託（下見から片付け，事故等の責任は業者が負う）の 2 種類がある．

白井の調査では，設置主体や運営方法が試行錯誤されていた[16]．託児所の設置場所は当番大学の構内に設置，学内保育所を利用，近隣の市立保育園の一時保育を利用・紹介，駅前託児施設を学会が紹介した，などがあった．会場のホテル内に既存の託児施設がある[17]ことは大都市以外ではまれであるが，あると便利である．

託児スペースを広くとれると，月齢に応じて過ごす場所を確保できる．また，託児以外の，予約の要らない設備として，第 71 回日本消化器外科学会総会（2016 年 7 月，徳島）では，外科系学会では初めて，おむつ替えスペース，授乳室や，お弁当やおやつ持参可で飲食可能の親子休憩室，ほかを設けた[18]．過去には，日本内科学会では託児が未就学児に限られていた[19]が，近年，小学生用の自習室を設けている[20]．

自治体の協力を得た派遣，有償ボランティアネットワークを保育者は利用することがある[16]．安心で



Fig. 2 The daycare nursery center at the 114th Annual Congress of the Japan Surgical Society (2014, Kyoto)
a. Childcare persons and children.
b. There is no signboard in front of the daycare room for security reasons.

きる託児サービスのために，保育士の資格，常に2人以上の保育者，保育者の事故と緊急時の対応を目的とした訓練，ほかが求められる[3]．傷害保険加入の有無，保険内容を確認しておきたい．託児業者加盟の保険に加えて学会が保険を掛ける場合がある．「災害緊急時には開催大学の指示に従う．」[15]の一文が託児所案内にある．

学会託児所は完全予約制で，大会1か月前からウェブで告知・申し込み受付を開始し，対象は生後3か月～小学6年生が多い．学術集会の主催者側には，予約や対象について柔軟な配慮があると，女性医師の参加がより容易になることが期待できる．体調不良の場合を想定し，周辺の診察可能な小児科のリストとリンクを託児所案内につける学会がある[21]．

託児の安全確保は重要で，場所を参加者のみに連絡し，「託児室」の貼り紙を外す（Fig. 2）．また，会場が広く移動に時間がかかったり，セッションの時間が長くなることがあるので，開室時間に余裕が欲しい．

学会関係者向けページに「託児所について」があり，学会理事長あてに援助金申請（上限10万円）のための「託児室開設申請書」，「託児室担当者向けマニュアル」，運営の発展向上を目的とし学会事務局に提出する「保護者対象アンケート」，「託児室利用状況報告書」の記入用紙がまとまっていて，PDF形式でダウンロードできる工夫をしている学会がある[22]．

2. 利用見込みと費用負担

会員数が少ない，若い会員が少ない，女性会員が少ない学会では設置したのに希望者がなかったり，利用者が少ないではないかと役員からいわれる可能性がある[11][13]．もちろん設置後数年間は利用者が少ないこともありえるが，実績を重ね広く周知することが大切であると考える．

日本麻酔科学会第64回学術集会（2017年6月，神戸）では，募集開始後すぐに定員（50名）になり，キャンセル待ちも多発した．生後3か月以降から12歳までが対象である．できるかぎりの定員増を行ったが，講演予定会場を圧迫するため，60名定員が限界であった．代替策として，神戸市内の託児所情報を学会のホームページに掲示した．これまで神戸ポートピアホテル開催学会の実績では，参加登録20,000人ほどの他学会では日々20名程度とのことであったが，日本麻酔科学会の預かり数は一番多いということであった．20代と30代の女性の麻酔科学会員数が多いからである．来年度の日本ペインクリニック学会第52回大会（2018年7月，東京）は初の女性会長であるが，子連れのスペースを拡大し，子供同伴専用の中継会場を設置することを計画しているという．

日本プライマリ・ケア連合学会では学会員の年齢構成が比較的若く，参加者に占める託児所利用者割合が高い．そのため，他学会に比べて託児利用者が多く，定員を超過したり，低年齢化（乳児の増加）が報告されている[9]．その結果，託児所利用費の適正化と安心・効率的で利用しやすい託児所運営のための仕組み作りが求められている[9]．

医学系は利用料を無料にすることが多いが，有料の場合，1コマ（2時間以上）あたり1,000～1,500円を利用者が負担することがある．保護者の身分（学生，ポスドク），複数預かりで，割引する学会がある[15]．日本麻酔科学会では1日3,000円としている．

今後の課題

現在医学生に占める女性の割合が年々増加してきており，今後女性医師が増え，学会託児所は必須となってくると思われる．各学会では担当委員会が学会託児所設置を申請し，保育士と場所の確保，予算について学会の理事会で承認を得なければならない．実施に際しては，当日利用人数の事前把握が現状では難しく，あらかじめ利用アンケートを行い，予備調査が必要であろう．人数が増えるとキャンセルも大きな問題となるので，キャンセル料も考えなければならない．学会会場のスペースの制限のために広い託児室のスペース確保が困難な場合もあるだろう．そのような場合には，近隣の一時保育室への紹介の情報提供も重要である．預かる児の年齢にも幅があるので，前述したようなおむつ替えスペース，授乳室，飲食可能の親子休憩室，小学生用の自習室を設けるなどの配慮があるとよい．これらにより，子供連れで学会に参加できるような雰囲気をつくることが大切である．

おわりに

託児にも工夫した学術集会運営は，より多くの学会員の参加を可能にし，優秀な若い将来のある学会員の参加を促進できる．また，学会員ばかりでなく，管理職の意識改革にもつながる可能性が示唆され，ひいては，医学・医療の進歩に貢献することになるだろう．

謝　辞

本研究は JSPS 科研費（16K08884）の助成を受けたものである．

開示すべき利益相反状態はない．

文　献

1）**日本産婦人科医会**：女性医師支援情報サイト　キャリアアップ　Part　1 .学会などに参加しましょう．http://www.jaog.or.jp/sep2012/ogwd_supporting/topics_sub12.html（参照 2017 年 10 月）
2）**星野真由美，渡邊揚介，後藤博志ほか**：女性外科医が育児をしながらキャリアアップするために必要なことは何か?　女性医師 79 名に対するアンケート調査．日小外会誌　**49**：1209–1216, 2013
3）**望月優子，松尾由賀利，延與秀人**：物理学会託児室をめぐって．日物理會誌　**56**：269–271, 2001
4）**田代むつみ**：託児所　子連れ学会参加のススメ～学会託児に感謝～．地盤工学会誌　61(11/12)：HP 92, 2013．http://www.jiban.or.jp/file/kaishi/25-11_12/HP-p92.pdf（参照 2017 年 10 月）
5）**薬師寺泰匡**：子連れで学会に行こう―救急医父娘 2 人旅．日経メディカル　2015．http://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/series/yakushiji/201502/540794.html（参照 2017 年 10 月）
6）**荒木葉子，橋本葉子，澤口彰子ほか**：女性医師の学会活動の現状．医教育　**33**：51–57, 2002
7）**冨澤康子，川瀬和美，萬谷京子ほか**：医学会分科会における女性医師支援の現状　学術集会時の学会託児所設置状況．日外会誌　**111**：317–319, 2010
8）**大串　幹，浅見豊子，藤谷順子ほか**：専門医のバックグラウンドを知る!　リハビリテーション科女性専門医の背景調査．Jpn J Rehabil Med　**47**：785–790, 2010
9）**村田亜紀子，西村真紀，日本プライマリ・ケア連合学会男女共同参画委員会**：学会における託児所運営の意義とプライマリ・ケア関連領域における設置の流れ．日本プライマリケア連会誌　**38**：148–153, 2015
10）**長　祐子**：小児科医のワークライフバランスを考える　体制整備　日本小児科学会地方会の取り組み　北海道地方会の取り組み．小児内科　**48**：72–74, 2016
11）**筑本知子**：日本物理学会年次大会秋季大会会場での保育室設置について．日物理會誌　**55**：718–719, 2000
12）物理学会保育室の歩み．http://research.kek.jp/people/nojiri/JPSchildcare/koremade.html（参照 2017 年 10 月）
13）**岩住俊明，延與秀人，筑本知子ほか**：座談会：物理学会託児室この 10 年．日物理會誌　**66**：380–385, 2011
14）**物理学会期間中の保育室設置を考える会（日本物理学会）**：シッター会社受託方式における，託児室学会開催校世話人向けマニュアル 2010．http://research.kek.jp/people/nojiri/JPSchildcare/sitterselection/kaisaiko.doc（参照 2017 年 10 月）
15）**日本物理学会**：日本物理学会 2017 年秋季大会（宇都宮大学）託児室のご利用案内．http://www.jps.or.jp/activities/meetings/2017utsunomiya/takuji.html（参照 2017 年 10 月）
16）**白井千晶**：学会託児の現状 2008．http://shirai.life.coocan.jp/html/39_shirai.pdf（参照 2017 年 10 月）
17）**日本消化器病学会**：託児所のご案内 2016．http://www2.convention.co.jp/102jsge/contents/nursery.html（参照 2017 年 10 月）
18）**日本消化器外科学会**：託児所．第 71 回日本消化器外科学会総会（2016, 徳島）http://www.congre.co.jp/jsgs2016/images/jsgs71_for_women_info.pdf（参照 2017 年 10 月）
19）「仕事と子育て両立　女性医師も難しく」読売新聞朝刊（2013 年 4 月 27 日）
20）**日本内科学会**：第 114 回日本内科学会講演会　託児ルーム・自習室のご案内．2017．http://www.naika.or.jp/info/nenji_takuji_114/（参照 2017 年 10 月）
21）**日本経済学会**：2016 年度春季大会　託児室開設のお知らせ．2016．http://www.jeaweb.org/jpn/strage/Meeting2016S_Nursery.pdf（参照 2017 年 10 月）
22）**日本小児歯科学会**：託児所について．http://www.jspd.or.jp/contents/gakkai/nursery/index.html（参照 2017 年 10 月）